

学校だより 希望の鐘

ひとつのつぼみはいちどしがひらかない



八戸市立 小中野中学校

平成30年11月19日(月)

No.137 文責：校長
工藤聡

懐かしの「我がシーチキンチャーハン」

11月16日の全国紙の投書欄に、中学生男子のものが掲載されていました。次のような内容です。

週末になると、我が家に試練が訪れる。父が、気合を入れて手料理をふるまってくれる——のだが、時として家族を悶絶（モンゼツ：もだえ苦しみ、気絶すること）させるモノが登場するのだ。

例えば「森の妖精の舞うブルーベリーパスタ」。料理名を得意げに披露する父。でもだまされてはいけない。ミートソースにサバ缶と大量のブルーベリーが入っている代物だ。なぜこの食材をチョイスしたの？と聞くと「クックパッドに載ってた」。隠し味として、我流でブルーベリーを加えた、とのことだ。

「さあさあ、冷めちゃうから食べて」。父が満面の笑みで勧めてきた。もう逃げられない。妹が「罰ゲーム」とつぶやく。味は、残念ながら想像通り。姉と妹と母が僕の皿に各自の分を「食べて」と寄せてくる。意を決して食べた。そして父以外は無言の時間が続くのだった。

これを読んで、思い出したことがあります。

私が東京で一人暮らしをしていた時のことです。私は8年半東京で過ごしましたが、賄い付き（食事がついてること）の下宿に住んでいた1年以外は、アパートに一人で暮らしていました。アパートに住む時には、自分で炊事をするつもりで、冷蔵庫はもちろん、炊飯ジャーやオーブントースター、フライパンや鍋等を準備したにもかかわらず、結局ほとんどはスーパーでお惣菜を買って来るか、ほか弁ですませていました。ただ、唯一何度か調理したメニューがありました。それがシーチキンチャーハンです。フライパンにシーチキンの油（オイル）をしき、そこにシーチキンを投入、さらにご飯を入れて醤油だけで味付けをするといった、いたってシンプルなもの。卵や肉といった食材や、塩・コショウなどの調味料がなくても、シーチキンの缶詰と醤油さえあればできたのです。今はネットで様々な料理のレシピを調べることができ、シーチキンチャーハンもレタスをあわせた物などかなりの種類がありますが、そんなことはできない時代でしたから、貧乏学生の“とにかく量だけは食べたい”という全く自分流のアレンジ料理でした。

先生になりたて（28歳で、田舎館中学校の3年生担任でした）の頃、このシーチキンチャーハンの話を担任をしていたクラスでしたところ、なんとクラス全員が食べたいと言うのです。土曜日の昼（この頃は、土曜日にも午前中4時間くらいの授業があり、生徒は持参したお弁当を食べてから部活動に行っていました）に、私が調理室で作ったシーチキンチャーハンを食べさせたところ、生徒たちは「うまい、うまい」と言って喜んで食べてくれました。「美味しく食べてくれて良かった」と思っていたのですが、後日親しい保護者の方から「娘が帰って来て、シーチキンチャーハンの話をしてくれました。『全部食べるのが大変だった。でも、工藤先生が美味しいだろう…と言うので、みんなで目配せ（メクバセ：素早く視線を走らせたり、まばたきをして見せたりして、合図すること。アイコンタクト）しながら頑張っただけで食べたんだ』と言っていましたよ」と笑いながら言うのを聞いて愕然としました。みんな、我慢して食べてくれていたのでした。美味しくもないものを「マズイ」と言うのは簡単で正直なことかもしれませんが、私はそれでも頑張っただけで「気持ち」や「心づかい」の方がうれしいと思います。

3年生は4次考査が終わり、ホッとしたのもつかの間で、本格的な学習会が始まります。1・2年生はテスト週間ですから、やはり試験勉強が大変だと思います。ストレス発散に、たまには自分で調理したものを食べたり、ご家族にふるまったりしてはいかがでしょうか。（写真は、私が28歳の時のものです。担任していたクラスの女子と遠足の時に撮ってもらったものです。白のトレーナーと赤いジャージでした。今だと、絶滅危惧種とでも言うべきコーディネートですね。まさしく、若気の至り（ワカゲノイタリ：若くて無分別だったためしでかした失敗のこと）で恥ずかしいです。）



“コナ中生の将来の夢” 第1位は「公務員」

校長室前の廊下に、「全校生徒将来の夢」と題して、将来就きたい職業がイラストと顔写真つきで掲示されています。文化祭の時に生徒会で企画したのですが、とても“いい感じ”でしたので、頼んで校長室前に貼ってもらいました。毎日じっくり見ているうちに、集計してみたくになりました。

結果は、1位→公務員11人、2位→建築家（建築士・大工さん）9人、3位は三つあり、ゲームクリエイター・会社員・保育士で7人、6位→トリマー6人 でした。

公務員は11人ですが、警察官(4人)・消防士(3人)・教師(3人)もいるので、この10人を加えると21人ということになります。かつては、「安定している（不況にあまり左右されない）」ということとで公務員を志望する人も多かったようです。私も教員採用試験のほか、労働基準監督署や国税専門官の試験を受けた（もちろんダメでした）ことがあります。それぞれ採用になるための学力をつけていかなければなりません。

建築関係の仕事を選んだ人は9人いますが、最近「物づくり」に関することを職業に選ぶ人も多くなったということを知りました。自分のやった仕事は、建築物や家屋として残るということは、とてもやりがいがあることだと思います。ただ、こちらにも資格が必要です。また、親方や師匠について学ぶやり方もありますが、厳しい修行や見習い期間が必要な場合もあります。それに耐えられるだけの気持ちも大事になってくるのではないのでしょうか。

保育士は、女子あこがれの職業の一つです。会社員というのも何となくわかるのですが、ゲームクリエイターというのは予想外でしたので少し調べてみました。『ゲームクリエイター：ゲームの企画や制作を行う、おもにコンピュータゲームの開発者全般の呼称。ゲーム開発スタッフの中でも、中心的な役割を果たす開発者を表す。』となっていました。スマホさえ扱えず、いまだにガラ系を使用している私にとっては、想像もできない職業であり、世界なのだと思いますが、ゲームクリエイターになるためには、かなりの才能やスキルと“ひらめき”が必要なのではないのかな…という感じがしてしまいます。これから、いろいろなことを経験する中で養ってあげればいいですね。

最近は大変なペットブームですので、仕事のうえでもかわいい犬に触れ合っていたいということで、トリマー（いわゆる犬の美容師？）を選ぶ女子の気持ちは大いに理解できます。国家資格のようなものはないようですが、心から犬を好きでないと続けるのは大変だと思います。

男女の傾向でいくと、男子は『夢』としてとらえているのに対し、女子は『現実的な職業』として考えている生徒が多いと思いました。3年生の三者面談一回目が先週終わりましたが、面談を終わった生徒に話を聞くと、女子は職業を考えて受検校や受検学科を選んでいて、「服飾関係の仕事に就きたいから〇〇の生活文化科を受けます」「ヘアメイクアーティストになるためにプラスになる勉強を高校ではしたいです」という感じでした。より具体的であれば、そのための準備（勉強）もしやすいのだと思います。

いろいろな職業を選んでいますが、どんな職業でも、その職業がある限り可能性も存在しているわけですから、夢に向かって頑張りたいと思います。3年生で、「ベンツに乗れるような仕事」と答えた人が2人いますが、それも私としては当然「あり」だと思います。私の感覚で言えば、ベンツは車としては結構高額ですから、よりお金を稼ぎ、一生懸命貯金しなくてははいけませんね。

最後に、私が一番感心したのは、3年生のくんの「課長」というものでした。会社のトップはもちろん社長ですが、そこまでは目指さないけど、中間管理職としての「課長」にはなりたいたいというのが、なんとなくほほえましい感じがしました。

いずれの職業も、何も努力しなくても「なれる」というものはありません。現在の小中野中学校での生活すべてが、将来の職業につながっていったのだと思います。

【今日のひとり言】

●先週の「命を育む講演会」ですが、講師の梅本先生を「梅村」と紹介してしまいました。実は、1年2組のローテーション道徳後の「道徳通信」も、2人の生徒の名前を間違えていました。そのあたりは、私としては珍しくイライラしており、仕事も失敗続きで余裕をなくしていたことが原因だと反省しています。イライラしていいことは一つもありませんね。人の名前を間違えるということは、一番失礼なことだと思います。本当にすみませんでした。

●今朝学校に来て玄関に入り、そこにいた生徒に「おはようございます」と声をかけると、ずーっと離れて2階にのぼろうとしていた1年生の男子2人がわざわざ1階に戻って来て、私に向かって挨拶してくれました。とてもさわやかな気分になりました。今週はいいことがありそうな予感がします。

●今日の私の似顔絵は、年組のさんに描いてもらいました。さんは将来パティシエになりたいそうですが、姉妹のさんも同じです。将来二人でお店を持つ…というのも素敵です。